

令和 3 年度学校評価

1 はじめに

学校教育法 42 条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同 43 条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員や P T A 代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立てている。

2 令和 3 年度学校評価の取組

(1) 令和 3 年度学校評価における課題と重点目標及び方策

対象者	課題	重点目標	方策
児 童 徒	学校生活の充実	安全安心に充実した学校生活が送れるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の推進を図る。	「実態表」を活用するとともに、教員間の連携を密にすることにより、個に応じた支援の検討および実践に努める。また、日常の関わりにおける観察より得られる児童生徒の状況や変容を把握し、日々の実践に活かせるよう努める。
保護者	情報の提供と保護者の交流	学校の様々な情報を発信することで、理解や参画を促す。保護者同士の交流をさらに図る。	各部、各校務部と連携し、保護者の要望に応じた情報提供や理解啓発への取組を図るとともに、保護者同士の交流が活発になるよう方法を工夫する。
医療センター	情報の交換と連携	様々な機会を捉え、適切な方法で情報交換を行い、連携の充実を図る。	病院への連絡方法や情報の提供の在り方を検討するとともに、C N T 会を中心に各病棟との情報交換を適切に行い、医教連携の強化を図る。
教職員	授業改善と教職員の専門性向上	児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める。	業務の効率化をはかることで授業改善に必要な時間を確保し、児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるため、支援に関する教員研修を充実させる。 部会、グループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となつての指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

① 学校評価の方法

上記の「令和3年度学校評価における課題と重点目標及び方策」をもとに、各部の経営方針及び各校務部の経営計画を決定した。職員会議での周知を経て、教職員共通理解のもと、今年度の教育活動や学校運営に取り組んだ。それらの評価については、10月初めに生徒（中学部・高等部）、保護者、教職員、1月に四国こどもとおとなの医療センター職員を対象とするアンケートを実施し、その結果を集計、分析したものをもとに自己評価としてまとめた。2月21日、学校関係者評価委員会において自己評価を報告し、学校評議員及びPTA代表者から意見を聴取したうえで評価結果を取りまとめる。そしてこれらを参考に、今後の教育活動や学校運営の改善に向けて、令和4年度の重点目標及び方策を策定していく。

② 学校評価の年間スケジュール

月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ クル で 実 施	学校評価委員会設置【校長・教頭・部主事・各校務部長】 運営委員会 職員会議で今年度の「課題と重点目標及び方策」について説明
5月		令和3年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		第1回学校評価委員会 令和3年度学校評価計画及び実施に関する検討 職員会議で令和3年度学校評価計画及び実施に関する周知 第1回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等 （1月に同じアンケートを実施）
7月		第1回学校評議員会 各部経営計画、校務部経営計画、評価項目等説明、授業見学等
9月		
10月		第2回学校評価委員会 「学校評価アンケート（生徒・保護者・医療センター・教職員対象）」項目の検討 企画運営委員会及び職員会で学校評価アンケート実施について説明
11月		「学校評価アンケート」実施、集計等
12月		各学部・校務部で「学校評価アンケート」集計結果の分析等
1月		第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等 第2回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等
2月		学校関係者評価委員会【学校評議員、PTA会長・副会長】 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		職員会議で学校評価結果報告 学校評価の結果公表（学校ホームページ） 学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

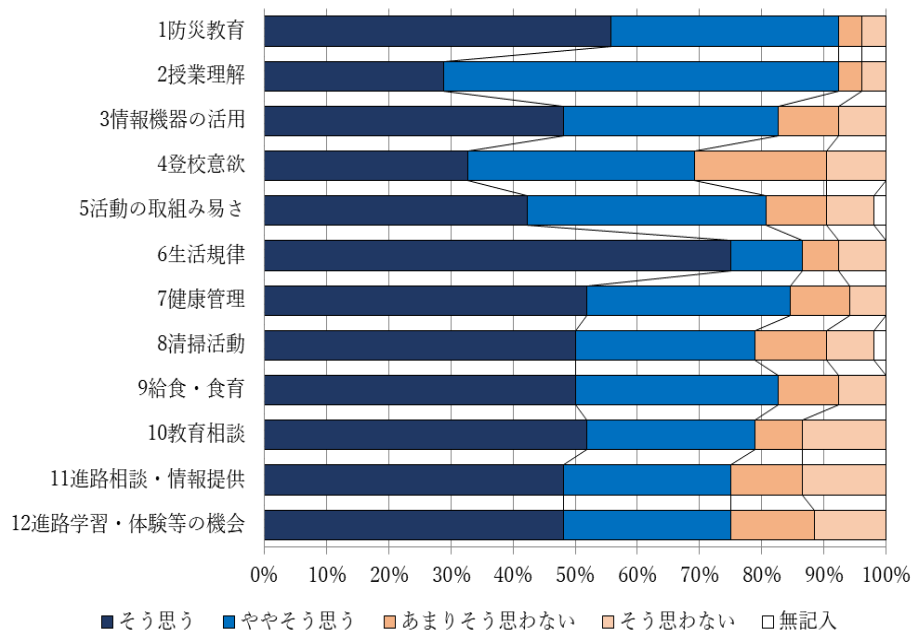
3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

<生徒>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは、授業や避難訓練を通して、防災の大切さが分かりましたか。	防災教育
2	授業は、分かりやすく工夫されていますか。【例:文字の大きさやふりがな等】	授業理解
3	あなたは、パソコンやテレビ、タブレットコンピュータ、スイッチなどの機器を使った授業を受けて、分かりやすかったですか。	情報機器の活用
4	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	登校意欲
5	サークル活動、委員会活動、学部集会は、みなさんの意見を取り入れて、参加しやすいですか。	活動の取り組み易さ
6	先生は、あなたの生活態度や社会ルールを守ることについて教えてくれていますか。	生活規律
7	あなたは、手洗い、歯磨きなどをして健康に気を付けていますか。	健康管理
8	あなたは、清掃活動の時間に、自分の清掃区域をきれいにしようと努めていますか。	清掃活動
9	あなたは、給食や食べ物に関心をもっていますか。	給食・食育
10	あなたは、生活や健康、勉強、進路等について相談できる先生がいますか。	教育相談
11	学校は、進路選択に関する相談や情報の提供をしていますか。	進路相談・情報提供
12	学校は、進路選択に関する学習や希望する進路先の見学や体験の機会を設定していますか。	進路学習・体験等の機会

生徒（配付57 回収52 回収率91.2%）

「そう思う」「ややそう思う」と
回答した生徒の割合（学部別）
（%）



質問	中	高
1	88.2	94.3
2	88.2	94.3
3	88.2	80.0
4	70.6	68.6
5	82.4	80.0
6	88.2	85.7
7	82.4	85.7
8	58.8	88.6
9	88.2	80.0
10	76.5	80.0
11	70.6	77.1
12	64.7	80.0

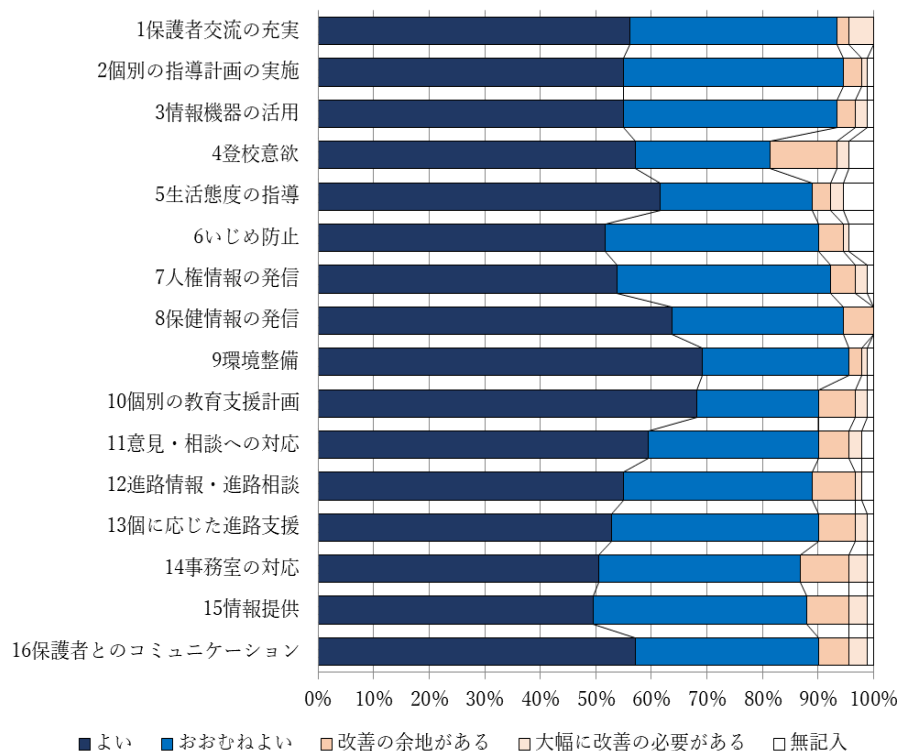
全体では「そう思う」「ややそう思う」が81.6%であり、昨年度(85.1%)よりやや低下している。最も数値が低いのは、「4 登校意欲」(69.2%)であり、昨年度(75.5%)よりさらに6.3%低下している。また、「11 進路相談・情報提供」「12 進路学習・体験等の機会」(ともに75.0%)も他項目と比較すると低い。コロナ禍でオープンスクールや事業所見学等の機会が減ったことが一因と考えられるが、現場実習や校内での体験活動を充実させる等、改善を図る必要がある。

一方、「2 授業理解」「1 防災教育」は、ともに88.2%と評価が高い。「5 活動の取り組み易さ」(80.8%)については、昨年度より9.1%上昇しており、サークル活動や委員会活動、部集会等について、コロナ禍で制限はあるものの感染症対策を徹底し、実施できたことは数値に表れている。教科学習以外の場において充実感を得る機会は重要であり、登校意欲のきっかけになることを期待したい。

<保護者>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	保護者交流の充実
2	個別の指導計画について、十分な説明がされていますか。	個別の指導計画の実施
3	学校は、児童・生徒の実態に合わせて、授業や行事でパソコンやテレビ、タブレットコンピュータ、スイッチなどを活用していましたか。	情報機器の活用
4	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	登校意欲
5	教職員は、お子さんの生活態度や社会ルールを守ることについて指導していますか。	生活態度の指導
6	学校は、「いじめ防止基本方針」に基づいて、お子さんが安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
7	学校は、人権や人権問題についての情報を適切に提供していますか。	人権情報の発信
8	学校は、おたより等を通して、保健や食育に関する情報を分かりやすく伝えていますか。	保健情報の発信
9	学校内の清掃は、行き届いていますか。	環境整備
10	学校は、お子さんの「個別的教育支援計画」を本人・保護者の願いに基づいて作成し、適切な支援を行っていますか。	個別的教育支援計画
11	学校は、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	意見・相談への対応
12	学校は、「進路だより」や掲示板、キャリア支援室を活用して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路情報・進路相談
13	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
14	事務室窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
15	学校は、保護者が求めている情報を提供できていますか。	情報提供
16	学校は、保護者のみなさんとコミュニケーションをとることができていますか。	保護者とのコミュニケーション

保護者(配付112 回収91 回収率81.3%)



「よい」「おおむねよい」と回答した
保護者の割合 (学部等別) (%)

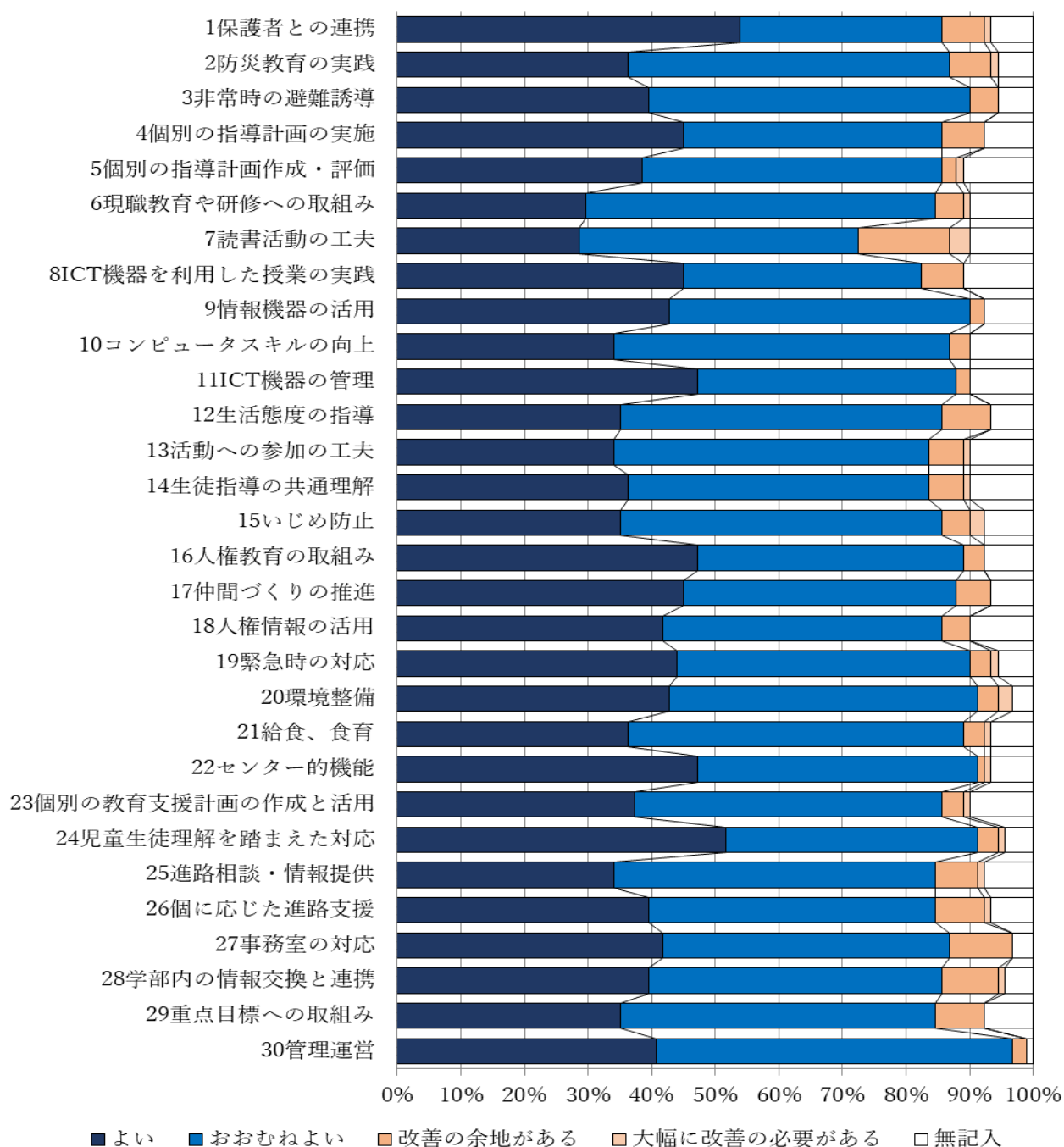
質問	小	中	高	院内
1	94.7	94.7	91.2	94.7
2	100.0	94.7	88.2	100.0
3	100.0	94.7	91.2	89.5
4	89.5	78.9	76.5	84.2
5	89.5	94.7	88.2	84.2
6	94.7	89.5	91.2	84.2
7	89.5	100.0	91.2	89.5
8	94.7	100.0	91.2	94.7
9	100.0	100.0	91.2	94.7
10	94.7	94.7	82.4	94.7
11	94.7	100.0	79.4	94.7
12	94.7	94.7	79.4	94.7
13	94.7	89.5	82.4	100.0
14	89.5	94.7	79.4	89.5
15	89.5	94.7	79.4	94.7
16	89.5	94.7	82.4	100.0

全体としては「よい」「おおむねよい」が9割(平均値 90.5%)を占めている。特に「1 保護者交流の充実」は94.7%と高く、授業参観、保護者交流会、PTA研修視察等、感染症対策の徹底と工夫によって開催が実現し、高評価につながった。さらに、学校ホームページにPTA関連事項を掲載することで情報の共有が図られている。一方、「4 登校意欲」は81.3%と最も低く、昨年度から7.4%の低下が見られ、学年が上がるにつれその傾向が強い(小学部 89.5%、中学部 78.9%、高等部 76.5%)。学校は、より保護者と連携し、児童生徒一人一人の課題に応じた丁寧な指導や支援を行う必要がある。

<教職員>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは保護者に対し、学校行事や学習状況について様子を伝えるなどして連携に努めていますか。または、働き掛けに協力ができていますか。	保護者との連携
2	あなたは、児童生徒の実態に応じた防災教育に取り組んでいますか。または取り組みに協力ができていますか。	防災教育の実践
3	あなたは非常時に、児童生徒を安全に避難誘導することができますか。	非常時の避難誘導
4	本人保護者の願いや実態表をもとに、職員間で指導内容や合理的配慮について話し合い、個別の指導計画を作成及び評価することができましたか。	個別の指導計画の実施
5	指導要録や個別の指導計画の手引きや用字用語集を活用し、作成及び記載することができましたか。	個別の指導計画作成・評価
6	キャリア形成のための各教科等の指導に向けて、専門性や資質向上のために現職教育や研修に積極的に取り組んでいますか。	現職教育や研修への取り組み
7	あなたは読書週間や図書便り、おはなしタイム等を通して、児童生徒の読書活動を促していますか。	読書活動の工夫
8	あなたは授業の中で、ICT 機器を利用していますか。	ICT 機器を利用した授業の実践
9	あなたは、学校でパソコンやタブレットコンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、必要に応じて使うことができますか。	情報機器の活用
10	情報研修会や情報メディア部だよりは、教職員のコンピュータスキル向上に役立っていますか。	コンピュータスキルの向上
11	情報メディア部は、ICT 機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	ICT 機器の管理
12	あなたは、児童生徒の生活態度や社会ルールについて、卒業後を見据えた指導をしていますか。	生活態度の指導
13	あなたは、サークル活動、通学生の会、委員会活動、学部集会上に児童生徒の意見を取り入れて、参加しやすいように工夫していますか。	活動への参加の工夫
14	各部会等で、生徒指導に関する情報交換や具体的な指導方法が協議されていますか。	生徒指導の共通理解
15	あなたは、「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
16	あなたは、児童生徒の自尊感情や人権感覚が育つように意識して指導していますか。	人権教育の取り組み
17	あなたは、児童生徒が他の児童生徒、教員との関わりを通じて成長できるように働き掛けをしていますか。	仲間づくりの推進
18	あなたは、人権や人権問題に関する情報を児童生徒の指導に役立てていますか。	人権情報の活用
19	あなたは、児童生徒の病状について周りの人と情報を共有し、緊急時に適切な対応ができるようにしていますか。	緊急時の対応
20	あなたは、校舎内外の清掃活動や環境整備に努めていますか。	環境整備
21	あなたは、給食や食育に関して理解に努め対応していますか。	給食、食育
22	あなたは、地域におけるセンター的機能として連携訪問や教育相談などの支援事業を実施していることを知っていますか。	センター的機能
23	あなたは、活用マニュアルや記入例を基に、児童生徒の実態や本人・保護者の願いに応じて「個別の教育支援計画」を作成し、適切に支援をしていますか。	個別の教育支援計画の作成と活用
24	あなたは、児童生徒の病気や障害特性の理解に努め、対応していますか。	児童生徒理解を踏まえた対応
25	学校は、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路相談・情報提供
26	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
27	事務室の窓口や電話の応対、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
28	あなたは、教職員や医療センター及び関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	学部内の情報交換と連携
29	学校評価の重点目標を達成するために、「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取り組みができていますか。	重点目標への取り組み
30	あなたは、教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対応ができていますか。	管理運営

教職員（配付94 回収91 回収率96.8%）



「よい」「おおむねよい」と回答した項目の平均値は 86.7%である。90%を越えた「3 非常時の避難訓練」「19 緊急時の対応」「20 環境整備」「30 管理運営」については、防災訓練や緊急時対応訓練、感染予防のための環境整備など、定期的な訓練の実施により、災害や感染症等の危機管理に備えることができている。「8 ICT 機器を利用した授業の実践」については「よい」「おおむねよい」と回答した教職員は、82.4%（事務職員と学校看護師を除く教員では 91.5%）であった。学校の臨時休業や出席停止した児童生徒への学習の保障として、教育現場の ICT 化が急速に進んだ。さらに、特別支援学校においては、障害による学習上または生活上の困難さを改善・克服するためにもその活用は有効である。本校において今年度は現職教育で重点的に教職員の活用技術と指導のスキルアップを図った。今後さらに実践を積み重ねていく。

最も評価が低かったのは「7 読書活動の工夫」であり、「よい」「おおむねよい」が 72.5%であった。「お話タイム」の開催や「図書だより」の発行により読書活動を推進しているが、今後はそれらの活動に加え、個々の児童生徒の特性や状況にあった読書教育の提案を検討する必要がある。

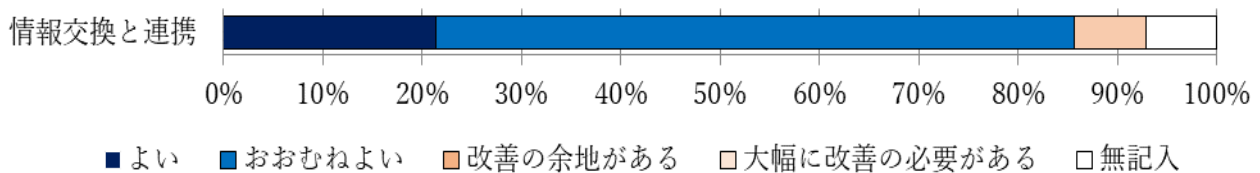
なお、無記入の回答がみられるのは、事務職員や学校看護師に対しても同じ内容のアンケートを実施しており、関わりのない項目についての回答を避けるため、無記入を選択している。

<医療機関（四国こどもとおとなの医療センター）>

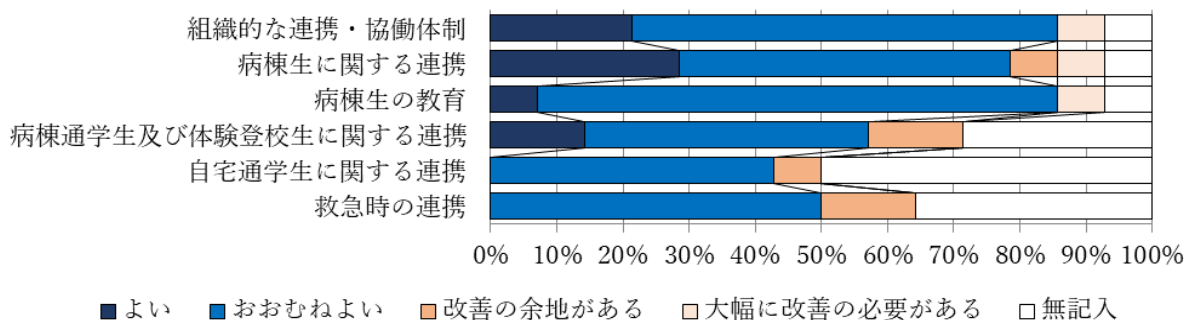
質 問 事 項	評 価 項 目
学校は、児童生徒の教育や療育について、病院と適切に情報交換を行い、連携を図ることができていますか。	情報交換と連携

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	病院と学校の組織的な連絡・協働の体制は、現状どおりでよいですか。 (定期的に行事予定やたより等を配付、必要に応じてDNTを開催 等)	組織的な協働体制
2	病棟生の教育や療育について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、CNT会 等)	病棟生に関する連携
3	病棟生への教育の方法は、現状どおりでよいですか。 (リモート授業、季節の掲示、個に応じた教材を届ける 等)	病棟生の教育
4	病棟からの通学生や体験登校性について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、医教連携簿、カンファレンス 等)	病棟通学生・体験登校生に関する連携
5	自宅通学生について、主治医、保護者、担任と連携を図ることができていますか。	自宅通学生に関する連携
6	学校は、児童生徒の病気やけが等の救急時に病院と連携を取り、適切な対応ができる体制がとれていますか。	救急時の連携

四国こどもとおとなの医療センター（配付17 回収14 回収率82.4%）



【連携等の詳細】



医療センターとの情報交換と連携については、85.7%が「よい」「おおむねよい」との回答であった。

病棟生については、CNT会を中心に各病棟との情報交換を行っているが、「改善の余地がある」「大幅に改善の余地がある」との回答も一部あり、さらに、病棟通学生、体験登校生、自宅通学生に関する連携についても、「改善の余地がある」との回答を得ている。今後、その要因を明確にして改善を進め、さらなる医教連携の強化を図る。

また、「病棟生の教育」については、現在も新型コロナウイルス感染症の影響により病棟閉鎖が続いており、月1回のリモート授業、季節の掲示、個に応じた教材を届ける等の教育に留まっている。「児童生徒との関わりがとれず大変な中、リモート授業やDVDなどによる教材の提供などよく考えられている」「リモート授業を増やせたら」「よいとは思わないが現状では仕方ない」「学習環境をもう少し整えるよう検討を」等のご意見をいただいている。今年度はリモート参観日の実施や卒業写真の撮影など、本校の教育に多大な理解と協力をいただいた。感染状況が落ち着くことを願って止まない。

4 学校評議員及び学校関係者評価委員会

令和4年2月21日に、学校評議員(4名)及び学校関係者(P T A会長及び副会長を含む学校関係者)による評価委員会を開催予定であったが、県内の新型コロナウイルス感染拡大状況及びまん延防止等重点措置期間であることを鑑み、会議を中止して書面等にて意見をいただいた。主な内容を以下に記載し、次年度の改善策に活かす。

- ・2年以上と長きにわたるコロナ禍で、日常的な学校生活が非日常の様相を呈し、さまざまな不安要素を抱える中で、学校全体で子どもたちを支えている先生方の工夫や努力をアンケートや他の資料から読み取ることができた。一方、アンケートで読み取れないものとして、保護者や先生方のストレスが少なくないものと懸念する。子どもたちはストレスを直感的に感じ取る。対面での相談支援という方法は、今の状況ではなかなか厳しいものがあるが、対面でないと出てこない本音もある。教職員、保護者の孤立を防ぐためにも、感染予防を適切に実施しながら、対面で話ができる場づくりについても検討いただけたらと願う。
- ・コロナ禍での教育活動に苦慮しながらも、I C Tの活用した学習や、子どもたちの楽しみにしている行事(修学旅行等)を工夫しながら実施している様子が感じられる。特に、ホームページの写真から、子どもたちのいきいきとした表情がよく伝わってきた。
- ・コロナ禍で学校と関わるのが十分にできずにいたが、学校行事を実施することが難しい中でも工夫して、子どもたちの心に残る学校生活を考えてくれていることに感銘を受けた。今後も子どもたちの学びの確保のために尽力いただきたい。
- ・進路や福祉、医療について相談したいときに、校内ではどこに相談すればよいか、専門機関へつながるのか等について情報があるとよい。
- ・今後も保護者と先生方が十分にコミュニケーションを取りながら対応し、子どもたちの成長を育んでほしい。
- ・P T A活動の啓発の方法はどのように行うか。(→学校ホームページにP T A活動について掲載するとともに、P T A総会等でホームページ画面を紹介する予定である。)
- ・今年度は生徒アンケート及び保護者アンケートについて学部別の集計があり、わかりやすい。その中で、中学部生徒の進路指導に関する項目の結果が気になった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で中学部の職場体験等の校外学習の機会が奪われたが、このような状況でも進級・進学・就労など次のステージに移らなければならならず、保護者も子も不安が残る。高等部の現場実習の報告会等に参加し、頑張っている凛々しい先輩の姿を見て、少しずつでも心構えができればと思う。また、それが登校意欲につながってくれればと願う。今後もエネルギーと笑顔に満ち溢れる学校であるよう応援している。

5 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
総務部	・保護者との連携及び保護者のPTA行事への参加や保護者同士の交流の促進	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、PTA総会は書面審議で行ったが、部別の授業参観に合わせて部別の会を行い、PTA役員の紹介や教育方針や経営などについて周知することができた。感染対策を十分に行いながら、保護者交流会（講演）を開催し大変好評であった。PTA研修視察も現地集合現地解散にすることで実施できた。昨年度初めて行った書面での保護者交流も好評だったので毎年行うことにし、今年度は11～12月に実施した。（3学期には、午前中に保護者交流会、午後に講演会を開催する予定。） ・今年度2学期から、学校HPにPTA関連事項を掲載することにした。行事の報告やアンケートでの感想などを掲載している。	・保護者へのPTA活動参加の啓発 ＊学校HPにPTA行事について掲載 ・保護者同士の交流促進 ＊コロナ禍での保護者交流会、研修会の工夫 ＊保護者交流の場の提供
	・防災教育の実施と災害時の避難体制の確立と充実	・年3回の防災避難訓練（①火災 ②地震・水害 ③地震・火災）を実施した。本校はため池浸水想定区域にあたるため、今年度より水害を想定し、体育館（2F）への避難訓練に取り組んだ。 ・自宅からの通学生の防災リュックは4月末時点で95.1%が備えることができた。また、防災備蓄品の分散保管について見直し、2階への保管を追加し、水害時に備えるようにした。 ・9月、1月の防災週間に合わせ、「防災コーナー」を設置し、防災クイズ、ハザードマップなどの掲示を通し、防災教育の啓発に努めた。児童生徒の実態に応じ、各教科等で防災に関する学習を充実させたり、部集会で防災学習の発表の場を設けたりして、防災意識の向上に努めた。 ・災害用伝言ダイヤルの無料体験に合わせ、保護者と教職員への体験案内を呼び掛けた。 ・引き渡し訓練は、小・中学部、高等部に分けて、毎年、交互に行っていた。今年度は2学期末懇談時に担任が模擬で引き渡し手続きを行ったことで、それぞれの想定される状況を確認することができた。	・防災教育の充実 ・災害時の避難体制の充実と徹底 ＊防災避難訓練の実施と防災計画の確認 ＊防災備蓄品の充実 ＊関係機関との連携

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
教務部	・教育課程の適切な運用による児童生徒の実態に合った授業の工夫 ・諸表簿等の正確な記載と合理的な処理	・小・中学部では新学習指導要領に基づいた教育課程を順調に運用し、実態表をもとに、各グループで児童生徒の実態、指導内容及び指導方法に関する話し合いを行っている。そうすることで教員間の共通理解を図り、手引きを活用しながら、より具体的な個別の指導計画を作成しつつある。それに基づいた授業の実施は保護者、生徒、教職員に一定の評価を得ている。 ・教育課程振り返りアンケートの実施や学習指導年間計画を活用し、教職員に振り返りの機会を設け、PDCA サイクルを意識できるよう働き掛けた。 ・R4 年度に向けて、教育課程検討委員会を設け、高等部 1 組グループの教育課程の検討や評価規準の作成を行っている。 ・教員の困り感を削減し、諸表簿の正確な記載と統一を図るために、昨年度作成した本校独自の用字用語集を活用してもらった。学期末に実施したアンケートをもとに用字用語集を更新する予定である。また、より一層の正確で合理的な記載ができるように、現在活用している出席簿と指導要録の手引きを見直し、記入例等の掲載の検討も行っている。	・新学習指導要領に基づいた教育課程を運用し、より一層児童生徒の実態に合った授業を実施し、学習評価を行う。 ＊各学部で教育課程の PDCA サイクルの実施。 ＊教育課程振り返りアンケートの内容を検討する。 ・個別の指導計画や諸表簿等の手引きと本校独自の用字用語集の活用により、より一層正確な記載を心掛ける。 ＊指導要録と出席簿の手引きについては新たに改訂した箇所を丁寧に説明する。
研究	・児童生徒の生活力・社会性を高めるための指導・支援スキルの向上 ・読書活動の推進 ・自立活動に関する指導、実践の専門性の向上 ・専門性を高めるための授業公開や研修会の実施と紹介	・教員が ICT の活用法を知り、授業を通じて ICT 活用のスキルの向上を図ることができた。 ・「お話タイム」や「読書週間」の行事では、ALT や教員、図書委員会が率先して、読書活動への関心を促すことができた。 ・「図書だより」を定期的に発行し、図書室の本を利用するよう促すことができた。 ・Co-MaMe の活用による児童生徒の実態把握を行ったり、自立活動学習会に参加したりすることで自立活動に関する指導、実践の専門性の向上に努めることができた。 ・研究授業の討議会において、グループ討議を用いた評価を実施することで、授業スキルの向上に向けての研修を進めることができた。	・ICT 活用法について、さらに研修を深める ・ICT 活用法について情報をまとめた事例集を作成し、活用できるようにする ・図書室の活用への意識の向上 ・新しい取り組みや、今の取り組みの改善・工夫点の検討 ・Co-MaMe の活用による児童生徒の実態把握 ・校内・県内外の研修会等の職員への周知、自己研修の機会の提供

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
情報メディア部	・ICT(情報通信技術)を活用した授業や、i P a dでのA T(支援技術)を活用できる教員を育成する。 ・インターネットを経由した双方向通信での遠隔授業や、インターネットを介さない遠隔授業の実施方法について検討・実施する。	・今年度はコロナ感染対策に気をつけて、久しぶりに夏季情報研修を実施した。例年実施しているビデオ編集、Photo Shop を使用した写真加工や合成、今年度新たに i P a d のアプリ紹介だけでなく、Zoom と Teams を使用して、実際に模擬リモート通信を行った。感染拡大時には実際に自分で生徒と通信を行う必要性が高まりつつあったので、参加した先生方はかなり真剣に取り組んでいた。スイッチ類などを i P a d で活用する A T の知識や技能についてお伝えすることができなかったのが、別の機会を考える必要があると感じた。 ・Bの回答数がAの回答を少し上回ってしまったが、リモート授業については夏季研修で実施し、定例職員会議をリモートで行うようになり、大部分の教職員が抵抗なく受け入れ始めたように感じている。さらに自分で会議を開始して、リモート健康観察など、家庭と学校を繋げられる方法を身につけてもらえるように、働きかけて行きたい。	・少人数での研修と内容の検討。特に i P a d とスイッチ類の連動に関する内容や、i P a d のアプリの使用方法について、さらに、NASと i P a d 間のデータのやり取りについて ＊メディア校務部員のスキルアップ ＊職員への個別相談、個別対応
生徒指導部	・自尊感情や自己存在感を高められるような、充実した特別活動やサークル活動を推進する。 ・よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う。 ・問題行動等の未然防止や早期解決のための体制づくりをする。	・昨年同様、コロナ禍において様々な学校行事やサークル活動などが制限を余儀なくされたが、少しでも活動機会を確保するために、コロナ対策を徹底し、この状況下でできるように工夫しながら新たな活動も取り入れた。 ・コロナの影響により、集団で活動する場面が少なく、それに伴って社会性を育てる機会が減った。しかし、学校生活全般においては、担任や教科担当者中心に機会をとらえながらルールやマナーについての個々の実態に応じた指導が継続して行われている。 ・保護者や生徒、教員からの情報をグループや学部内で共有し、早急に対応することで大きな問題に発展することはなかった。	＊自尊感情をさらに高めるための支援や活動形態の工夫 ・継続実施 ・教員、保護者、生徒間での情報共有

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
人権・同和教育部	・人権教育への取り組み ・仲間づくりの推進 ・人権情報の活用	・職員全員に人権感覚チェックを実施し、児童生徒に接する態度を振り返ると同時に、児童生徒の人権感覚を育成するための研修の機会とした。各学部とも人権感覚について高い評価が出ており、人権意識を高くもって児童生徒に接することができていると思われる。 ・人権展での作品作りを各学年やグループでの共同作品にすることで児童生徒同士の交流を図ることができた。 ・グループ間交流をすることにより、お互いを認め合うことやコミュニケーションをとることの大切さや楽しさを児童生徒に感じさせることができた。 ・人権啓発のポスターやイベント情報を校内掲示することにより、よりタイムリーな人権課題を提示して考える機会をつくることができた。 ・「心のとびら」を配布して児童生徒の人権学習の様子や人権についての今日的な情報を伝えることができた。	・自尊感情を育てる支援の工夫と継続 ＊人権感覚チェック項目の他校との比較検討 ・自他を認める人権意識の高揚に向けた支援の工夫と継続 ＊交流推進の場面や状況設定の工夫 ・校内掲示による情報発信 ＊「心のとびら」や職員研修による詳しい情報提供と啓発
保健・環境部	・児童生徒の生活習慣の改善と保護者、職員への情報発信 ・緊急時対応訓練、医学講座など、研修の内容や方法の工夫 ・校舎内外の環境整備 ・食に関する指導を推進するための情報発信	児童生徒保健委員会で、保健衛生調べや換気、手洗い、うがい等の校内放送を継続して行っており健康管理に対する意識の向上につながっている。継続して生活習慣の改善と定着を図っていきたい。 コロナの影響で実施できなかった研修もあるが、各グループで行った緊急時対応訓練では、緊急な事態の想定、対応行動の流れをグループの職員全員で検討したり、訓練したりすることで、職員間で共通理解をすることができ、それぞれが危機意識をもって対応するようになってきている。 毎日の清掃の時間は児童生徒、職員全員で清掃に取り組んでいる。大掃除では具体的に重点場所を児童生徒へ校内放送で伝えた。感染予防のためや天候により、外回り清掃の回数が少なかった。モップの洗濯等、随時清掃用具の点検、整備も行った。 もぐもぐ掲示板、食育だより、毎月の献立表のなかの食材に関するコメント等で食に関する情報を発信していくことができた。昨年度から始まった給食が定着し、メニューについて食事の時間に話題になるなど、食に対する関心が高くなっていると感じる。	・保健に関する関心の向上 ＊保健衛生調べの内容の工夫 ＊保護者との連携 ・医学講座、緊急時対応訓練等の内容の充実 ＊医学講座、緊急時対応訓練等の実施回数や内容の検討 ・校舎内外の環境維持 ＊児童生徒、教職員への清掃啓発 ＊保管している清掃用具等の有効活用 ・情報発信の継続 ＊献立表、掲示板、食育だよりの内容の充実

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
教 育 支援部	・校内の相談支援の充実	・「ほっとルーム」の運営については多くの職員の支援を受けながら行えた。今年度の昨年度に続き利用者が減少している。 ・座談会は現時点では2回実施している。参加者も10名ほど参加していただくことができた。保護者間で自分の体験を踏まえたやりとりをすることができ、自らの課題に対する参考意見を吸収することができていた。 ・スクールカウンセラーとの教育相談を希望する児童生徒・保護者・職員をつなぐことができた。スクールカウンセラーとの相談内容についても連携して対応することができた。 ・校内の児童生徒・保護者・職員からの相談が年々増加してきている。相談できる環境が整いつつあると思われる。 ・校外からの相談件数も増加してきている。Webを活用した教育相談も実施し、相談内容に対応することができた。 ・公開講座は今年度も中止した。その代わりに、Webを活用した教育相談会を実施した。3件の相談依頼があり、教育支援部員全員で質問に対する対応を行った。参加者からは、質問に対して具体的に答えてくれたので助かりましたとの感想をいただくことができた。	・ほっとルーム運営に関わる職員の安定確保 ＊相談支援事業に対する校内職員への理解啓発 ・他の保護者会等との関連性を考えた座談会実施方法の検討 ・SCとの連携の継続 ＊定期的なSCとの情報共有の実施 ・相談窓口の周知方法の検討 ・Webを活用した教育相談方法の検討 ・相談会の周知方法の検討 ＊コロナ対策をしながらの研修会の実施方法の検討
	・教員の専門性の向上	・事例検討会では、各部から1事例ずつ出してもらい部を超えての意見交換を実施することができた。違う学部からの別視点での意見を参考にすることができていた。	・事例検討におけるケースの抽出方法の検討 ＊学部間の連携を考えた会の運営
	・「個別の教育支援計画」及びサポートファイル「かけはし」の作成推進	・医療的ケアへの対応や福祉サービスとの連携についての記入も進み、より具体的でシームレスな支援を考えていくことができていた。	・学校看護師との連携方法の継続 ・関係機関との連携（ケース会議）の進め方の検討
	・地域への理解啓発・情報提供や教育相談の充実	・外部からの相談に対して教具の提供や指導における情報提供を実施することができた。相談件数も増加してきている。	＊他の分掌との連携を強化 ＊情報発信の継続

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
進 路 指導部	・保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けの強化 ・教職員に対して各種進路情報の提供及び他校務部との連携の強化 ・関係機関との連携の強化	・全体に改善は見られたものの、高等部の評価が低い。今年初めて「後見人制度」に関することを中心に伝えたが、その後保護者が研修会で講演会を開く等、関心が高かった。 ・高等部では1、2年生では学年別に進路説明会を行い、学年に応じて内容を精選して伝えることができた。3年生は個別に相談会を行っているが、生徒や保護者の意識に個人差があり、なかなか進路が決まらない生徒がいた。 ・研修会は行わず、就職と後見人に関する書籍や動画を紹介した。読んだり見たりした方には好評だったと思われる。また、何人かの先生が個別に質問に来てくれ、対応することができた。 ・概ね連携できた。	・保護者の希望にあった情報の提供 ＊単に進学や就職、福祉サービスに関する情報を伝えるだけでなく、進路や卒業後の生活について、より関心をもってもらえるようにする。 ＊引き続き情報を発信するとともに、個別に話をする時間を設けたい。 ＊特に改善することはないが、今年以上に進路指導主以外の職員も関わることをできるようにしたい。
小学部	・重点目標への取り組み ・学部内及び関係機関との連携 ・管理運営面への意識	・感染状況に応じた行動基準をもとに、校内の学級では、配慮と工夫で授業を進め、昨年度中止や縮小した校外学習や修学旅行、交流等も行い、児童一人ひとりの成長を促すことができた。また、院内学級では、CNT会で情報交換し病棟と連携して、リモート授業を実施。楽器等の教材の持ち込みも可能になり、授業構成や内容を工夫し、児童の反応を引き出した。また、念願のリモート授業参観も行えた。ただ、保護者の方から「行事が減り、先生方との交流の機会が少なくなった。」というご意見もいただいた。コロナ禍、行事や関わりが減っているからこそ、より意識して話やすい環境作りに努め、保護者からの話に耳を傾けていく必要があると考える。 ・グループで情報交換を行い、児童への支援や手立て等を検討、改善しながら取り組んできた。また、『みんなで小学部全体を観る』という意識を全員がもてるよう、知り得た情報は、部会やグループ会、朝礼、日々の会話のなかで互いに共有している。小学部全体を意識し、より円滑に部を運営できるようグループ主任会を行い、協力体制のもと進めてきた。また、必要に応じて病院や関係諸機関と連携し、児童を取り巻く環境も含めてサポートしてきた。 ・環境整備や安全対策について検討し、確認を行うことで、適時に対処して整備できている。	・専門性の向上 ＊効果的な指導の在り方を追求 ・保護者との交流 ＊話しやすい環境づくり ・連携の強化 ＊保護者からの情報収集、報告 ＊毎月1回CNT会の実施 ＊必要に応じカンファレンス、ケース会の実施 ・継続実施

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
中学部	- 重点目標への取組み - 学部内の情報交換と連携 - 管理運営面への意識	- 生徒一人一人の病気や障害特性の理解に努め、個に応じた指導や支援が行えるよう学級、グループ、学年、学部全体で共通理解を図り、日々の指導にあたっている。 - 保護者との情報共有はもちろんのこと、校内だけでなく、医療センターをはじめとする関係機関との連携を密にしながら、それぞれの課題に対応している。必要に応じて、関係者会をもつなどして課題に対応している。 - 修学旅行中の保護者への情報提供が不十分だというご指摘を受けた。次年度は改善していきたい。 - グループ会、部会等でも常に情報交換を行って、細かな連携を行った。また、定期的にグループ主任会を行い、共通理解を図ったり、グループを超えた協力体制の構築を図ったりするなど中学部全員で生徒の指導に当たっている。 - 感染症予防の意識を常にもち、消毒や換気など安全管理に積極的に取り組んでいる。	- 授業改善 ＊指導内容・指導方法・指導体制の改善 - 情報交換に基づく連携 ＊生徒・保護者・職員間での情報共有 ＊保護者への情報提供 ＊必要に応じた関係者会の実施 ＊定期的なグループ主任会の開催 ＊職員間の協力体制 - 感染症予防への取組
高等部	- 学部内及び関係機関との情報交換・連携 「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取組み - 教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処	- 職員の情報交換、連携については高等部全体の課題として日ごろから意識して取り組んでいる。しかし、情報共有が不十分であったために起こった事案も見られた。医療センターや関係機関との連携もおおむねできているが、不十分だと感じる職員もいる。 - 各校務分掌、学部で会議や普段の取り組みの際に職員へのアナウンスがおおむねできている。生徒の実態の多様化により、個に応じた指導・支援を模索しながら取り組んでいる。 - 感染予防対策が日常化し、教室の環境整備に対する意識が定着してきている。事務処理に関しても、おおむね正確、迅速にできている。	- 病院や関係機関、保護者などから得た情報をグループ、学部内で共有してチームで取り組む体制をさらに強化する。＊職員が集まって生徒のことについてざっくばらんに話ができる環境づくりを行う。 - 目標や課題を明確するためにさらに周知を徹底する。 ＊改善策を生かした取り組みの可否は自他評価が必要であるので、職員間で協議しながら、中間評価を定期的に行う。 - 教室環境や衛生・安全対策は今後も継続する。 ＊事務処理に関しては、年々増大する傾向にあり、必要なものを取捨選択する必要がある。